

「農業」で
 メシが食いたい。



- 2 特集 農に吹く新しい風
- 14 3セク「庄原さとやまペレット株」を設立
- 15 地域を元気にする起業を支援
- 16 耐震診断・改修工事に補助
- 19 市政トピックス
- 22 カメラレポート
- 27 お知らせ
- 34 庄原子どもミュージカルが10周年

是本農園(上谷町)で農業研修生として働く新井将さん(広島市出身)。

本村野
 生産組合



(平成19年11月23日撮影)

しょうばら
百景
 SHOBARA HYAKKEI
 Vol.7
 亥の子祭り

この写真は、毎年11月23日に東城市街地で行われる「亥の子祭り」です。
 通学区ごとに子どもたちが集まり、祭壇をつくってお供えし、猪子大明神をまつり神事を行います。その後、子どもたちは「亥の子石」と呼ばれる円筒形の石に何本ものロープをつないだもの、亥の子石を叩く竹棒、提灯などを持って、地区内の各家をまわります。
 各家の前では、亥の子石を囲むようにロープを子どもたちが持ち、「エンシヨヤ・カンシヨヤ」のかけ声とともに亥の子石で地面を叩きます。わたしは子どもたちが力を合わせるこの姿が、とても気に入っています。
 「亥の子祭り」は、祭神の猪のように丈夫な子どもをたくさん産んで、その子が健やかに育ち、子孫が繁栄することを願ったものが始まりと言われています。全国各地に広がったこの祭りも今では珍しい風景となっています。
 穴光久夫(東城町)

応募方法
 写真を通して庄原市の魅力を再発見するコーナーです。風景写真はもちろん人物写真でも結構です。あなたの好きな庄原市の風景を写真で紹介してください。またこの写真への思いや撮影エピソードなどを200字程度にまとめ、郵送またはメールでご応募ください。
 応募先
 〒727-8501 庄原市中本町一丁目10番1号
 庄原市企画課広報統計係
 ☎0824-73-1159
 メール kikaku-toukei@city.shobarahiroshima.jp

新築そっくりさん
 使える柱・梁はそのまま
 一棟まるごと大改造!
毎月見学会を開催しています。

住友不動産
 新築そっくりさん 広島東営業所
 〒739-0011 広島市西条本町7-29(林ビル1階)
 TEL082-431-3525 FAX082-423-1751

詳しくはフリーダイヤルでお問合せください。また、ホームページでもご覧頂けます。
0120-356-218
 http://www.sokkuri3.com

資料請求券
 ほかにもの情報を取って
 送って下さい。



特集
SPECIAL FEATURE

農 に 吹 く 新 し い 風

New wind to blow for agriculture

農

「農業」でメシが食いたい。

— 異業種・若者の農業参入を追う —

県内トップクラスの農業生産額を誇る「庄原市」。一方で、農業の担い手不足や耕作放棄地の増加は年々深刻な課題となり、将来への不安が高まっている。

そんな中、近年、農業に新しい風が吹いてきた。公共事業の減少や経済不況に伴い、建設業などの異業種や、農業と縁のなかった若者が、新たな雇用の場を求め農業に参入している。

「農業でメシが食いたい」。農業の担い手として期待が高まる「新たな農業者」に迫る。



Interview



建設業で失われた雇用を農業で

庄原商工会議所

玉川 忠義 会長

地元建設業の仕事量はピーク時の半分以下に減りました。競争も激化し、最低制限価格ぎりぎりでの落札が続

いるのが現状です。このような厳しい状況の中で業績は回復せず、市内だけでも昨年1年間に9社が倒産し、多くの雇用が失われました。現在の庄原市の有効求人倍率は0.47倍、50歳以上では、ほぼ0です。そのため、経営者は給料を下げて雇用を守り、また新分野への進出を模索しています。

現在、国は建設業から農業や福祉など新分野への参入を奨励しています。が、異業種で成功するのは簡単ではありません。しかし、中山間地域にとつて、建設業と農業は地域経済を支える要です。建設業で失われた雇用を農業など、他の分野でいかに創出できるかが庄原市の経済や地域の存続を左右する大きなポイントになります。そのためにも、国の農政が長期的に安定し、安心して農業に参入できる環境づくりが求められています。



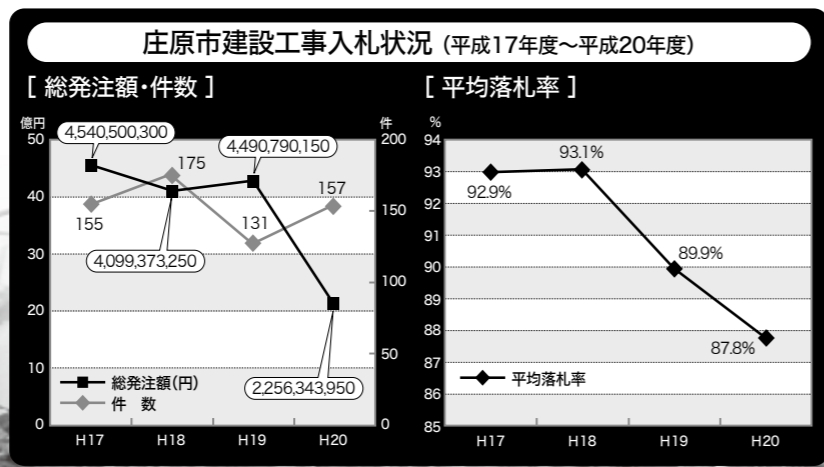
国内産イチゴの出回る時期と言えば、従来は年末年始や春先。国内産の夏秋イチゴは、一般に冬春イチゴに比べ甘みが少なく、生食には向かない。しかし、濃厚な生クリームと一緒に食べると、イチゴの存在感が際立ち、酸味と甘みのバランスも絶妙。夏でもイチゴのケーキが食べたいという消費者のニーズは高く、今後に期待が持てる農産物。

建設業のノウハウを生かす

同 じく夏秋イチゴの栽培を本年度から始めた三宅建設(株)。農業部門を担う(株)ひばごんファームを設立し、西城町三坂地区に総事業費約8千万円をかけてビニールハウス10棟を整備した。

「会社の体力があるうちに、新たな雇用の場を確保するため農業に進出した」と言う(株)ひばごんファームの田盛健治社長。県や市などの補助金があるのがチャンスとにらんだ。一方で、企業の経営で農業が成り立つのか不安もあった。企業の経営では人件費がすべてコストとなるため、人

件費分が所得となる一般の農家経営以上に収益を上げなければならぬ。収穫が始まった7月は予想以上の収穫量で順調にスタートを切ったが、8月は日照不足などの天候不順で7月の半分まで収穫量が落ちた。「農業は自然が相手。工業製品を作るようにはいかない」と農業の難しさを感じた。本年度の生産量は当初計画の7割程度になる見込み。しかし、秀品率は年間通して高く、今後に自信をのぞかせる。その要因として、労務管理、工程管理、品質管理、原価管理など、建設業で培ったノウハウが農業に生かせるという。田盛社長は「この冬はデータ分析が忙しい。データ管理とマニュアル化で3年目には農業経営を軌道に乗せたい」と話す。



新しい風 1

chapter 01 建設業から農へ

農



公共事業の減少、競争の激化で、地元建設会社の農業参入が増えている。本市にとって、建設業の衰退は地域経済の崩壊にもつながる大きな問題。建設会社の新たな挑戦をレポートする。

雇用を守りたい

「任」事が減ってきて、リストラが避けて通れない時代。だけど、何とかして雇用を守りたい。それが企業の使命。そう語るの、小林建設(株)の小林茂樹社長。農業生産法人「(有)R・E・D」を設立し、平成19年度から夏秋イチゴの栽培を始めた。

「この地域で農業をするなら、冷涼な気候が生かせる夏秋イチゴがいい」と知人から勧められたのがきっかけ。夏場のイチゴは、アメリカなどの輸入品が大半を占め、国内産は付加価値が高いという。夏でも夜間温度が20度を下回る標高700〜800mの農地を求め、高野町依原地区の遊休農地を選んだ。国の補助事業を活用し、鉄骨プラスチック温室14棟などを整備。栽培面積は約2畝で、夏秋イチゴの生産量としては全国でも最大級の施設だ。

「最初は施設を作ればイチゴはできるという認識だったが、農業はそんな甘いものではなかった」と小林社長。初年度の生産量は計画の半分にも満たなかった。夏秋イチゴは栽培の歴史が浅く、栽培技術や品種改良が十分に確立していないのが最大の要因。それでも日々改善を重ね、3年目の今年は、目標の7割程度まで売上高を伸ばしている。

「経験を重ねることで、いろいろな知恵がでてくる。安定した生産量が確保できれば、市場でも有利に販売ができる。来期には高野町での生産を完全に軌道に乗せ、次は庄原地域でいろんな農業に挑戦したい。そうすれば、年間を通して就労の場を確保できる」

現在の従業員はパートを含め35人。スタート当初から働く比和町の細田絹子さんは「60代になっても雇用してもらえて本当にうれしい」と喜ぶ。地域の新しい雇用の場として期待が広がっている。また、販路に悩む地域の農家にも「スケールメリットを生かし、一緒に販売しましょう」と支援を持ちかける。建設会社の農業参入が地域に元気をもたらしている。



Interview



若者の目が農業へ向きだした

県立農業技術大学校 教務課長

和田 信幸 さん

高度経済成長以降、都市のサラリーマン所得と農業所得の格差が広がりました。しかし、ここに至ってサラリーマン給与が頭打ちとなり、若い人の3人に1人は非正規雇用職員と言われている中で、所得の差が縮まって来ている

のではないかと。そうした中で、若い人の職業選択の中に農業が入りこんで来たように思います。実際に、本年度の推薦入試の状況をみると、昨年の約3倍の応募が来ています。本校に入る学生も多様化してきま

価値観を持つている方が多い。また、集落法人や農外企業参入による求人が増え、農地がなくても「農業をやりたい」という夢を実現できるようになってきたのも大きい。現在は、市場出荷に加え直売やインターネット販売など販売方法も多様化しており、本人の工夫方法も多層一層収益性を高めることもできます。授業の中でマーケティングを教えるなど、農業を目指す若者をしっかり支援していきたいと思っています。



牛舎の近くで水田放牧



牛が大好きな新谷さん

農業生産法人で夢を実現

農 地など農業資源を持っていない若者が、農業生産法人などの従業員として「農業をやりたい」という思いを叶えている。

三次市出身の新谷三奈美さんは、今年春、県立農業技術大学校を卒業し、口和町の「農事組合法人ゆき」に就農した。新谷さんの両親はサラリーマン。「三次市のおじいちゃん家の近くに和牛の繁殖農家があり、小学生の頃から牛がかわいくて遊びに行った。それが今の原点」と話す。西条農業高校を卒業し、県立農業技術大学校の畜産課程へ進学。研修で1

カ月間、和牛肥育農家へ通った際、夫婦仲良く楽しそうに農業をしている姿にあこがれた。「牛は臭いとか、汚いというイメージを持つ人もいるけど、わたしは牛を見て『かわいい』と感じるのが先」という奥さんの言葉に共感し、本当に農業をやりたいと感じた。「農事組合法人ゆき」では、和牛繁殖担当として、27頭を飼育する。学校で専門技術を学んだものの、「知らないことばかり」と勉強の毎日。それでも、牛舎のことはすべて任せられ、やりがいを感じている。そして、牛のせり市などへ行くと「若い女性が珍しい」と、どこに行ってもかわいがられる存在になった。実は、来年2月に結婚を控え、「農事組合法人ゆき」を年内で退職する予定。

西城町へ移り住む。「農事組合法人ゆきの皆さんには本当によくしてもらい申し訳ない気持ちがいっぱい」と複雑な表情を浮かべる。それでも、「将来できれば、和牛の繁殖経営に取り組みたい」と夢はあきらめていない。



chapter 02 非農家の若者が農へ



「農業後継者は、農家に生まれ育った子ども」。これが、今までの常識だった。しかし、「不況」や「食の安全意識の高まり」で、農業に縁のなかった若者が就職先に農業を考えている。農業に夢を描く若者をレポートする。

専業農家を目指す研修生

島市出身の松川剛大さんは以前、工場で働いていた。昨年末、経済不況でリストラにあつた時、広島県が緊急雇用対策の一環で、県立農業技術大学校の農業研修が1カ月無料で受講できると知った。「農業か：悪くない。ただ1カ月の研修で就農できるほど、農業は甘くない。やるなら2年間みっちり勉強しよう」と今年春、県立農業技術大学校へ入学した。

松川さんの両親はサラリーマン。農業は小さい頃、農繁期に東広島市の祖父の家で手伝った程度。それでも「おじいちゃん家で食べたお米や野菜のおいしさは忘れられない。自分も消費者に喜ばれる農産物を作りたい」と動機を話す。「農業がしたい」という漠然とした夢が具体的なになったのは入学後、市の「農業後継者育成事業奨励金」の説明を聞いてから。この奨励金は、市が農業後継者の育成・確保を目的に、本年度創設した。市内の農家や県立農業技術大学校で研修を行った後、1年以内に市内で農業の専業経営を始める方に、研修期間中2年間を上限に月額10万円を奨励金として交付するもの。「お金をもらいながら勉強できるなんてありがたい。また、庄原市は農業

がしたい」という漠然とした夢が具体的なになったのは入学後、市の「農業後継者育成事業奨励金」の説明を聞いてから。この奨励金は、市が農業後継者の育成・確保を目的に、本年度創設した。市内の農家や県立農業技術大学校で研修を行った後、1年以内に市内で農業の専業経営を始める方に、研修期間中2年間を上限に月額10万円を奨励金として交付するもの。「お金をもらいながら勉強できるなんてありがたい。また、庄原市は農業



農業後継者育成事業奨励金の研修生意見交換会。本年度認定された左から松川さん、新井さん、高橋さん。

に力を入れているので、専業農家になっても心強い。県立農業技術大学校の近くであれば、気象条件など学校で学んだことが生かせる」と、同校に通う高橋智一さん(広島市出身)と一緒に申請した。将来のアスパラガス農家を目指す、実習にも力が入る2人を市農林振興課も全面的に支援する。相談に乗ったり、市内のアスパラガス農家の視察に行ったり、今後は農地や空き家の斡旋などを行う予定だ。今後について、「農業経営には当然不安もある。しかし、後継者不足に悩む農業は、飽和状態の他産業に比べベチヤンスも大きいのでは」と高橋さん。松川さんは「品質の高いアスパラガスを栽培し、マーケティングを勉強しながら儲かる農業を目指したい」と意欲を燃やしている。



県立農業技術大学校で学ぶ学生

農業でメシが食いたい。農に吹く新しい風

—異業種・若者の農業参入を追う—

現在、「女子高生キムチ」のほか、「カーブ激辛キムチ」竹炭入りの「燃え黒」、ゆず入りの「高野山だいこん漬け」などを発売。近々「男子高生カクテキ」も発売予定。



「コクがあって、キリっとした辛さ。後味がさっぱりして、飽きのこない本格的な韓国の味にこだわった」と松森社長



新しい風 3

chapter 03 食品会社が農と連携



安全で安心な野菜を求め、外食や食品加工などの食品会社が農業に参入したり、農業者と連携したりするケースが増えてきた。これは耕作放棄や販路の開拓に悩む地域にとっても魅力的。動き始めた農商工連携をレポートする。

安全安心求め 自社農園

【生】産の履歴をきちんと管理し、安全安心な料理を提供したい。旬菜創作バイキング露菴など、西日本に25店舗のレストランを展開する「おいしい約束(株)」が、庄原市で農業を始めた。外食チェーンとしては市内で初めての進出となる。

もともと焼肉のバイキングレストランを展開している「おいしい約束(株)」。BSEの影響で大きく業績が落ち込み、食の安全安心を求める議論を重ねた。「いつかは自社農園を」とその目標を実現するため、平成19年8月に農業生産法人「おいしい約束ファーム(株)」

を設立した。

昨年春から、川北町の農地4畝を借り、トマトやナス、ピーマンなどレストランでの消費量が高い15品目を栽培。過剰にできたもの。計画通りでできなかったもの。栽培技術に課題があり、少量多品目生産の難しさを感じた」と中島靖人専務。2年目の今年、コマツナ・ホウレンソウなど4品目に絞り、安定生産・安定供給に取り組んでいる。

自社農園で栽培しない品目は、市内の農業生産法人に依頼。「一定価格で安定して買い取ってもらえる」と喜ばれている。庄原産の野菜は消費者にも好評で、今後も協力農家を増やす予定だ。地域への波及効果が期待される。中島専務は県内の各農業委員会事



農地情報の公開に取り組む

農業委員会事務局 局長

光永幹夫さん



農業を目指す多様な人々に参入してもらうためには、農地情報の公開が必要だと感じています。また、新規就農者には空き家と農地をセットで紹介する仕組みも大切です。

現在、農業委員は各地域を歩き遊休農地を把握していますが、農業委員会としてその情報を整理したものがありません。そのため、農業委員会に問い合わせがあると、どのような農地を探しておられるのか確認し、各地域の農業委員に問い合わせながら農地を探している状況です。

本年度、農地法が改正され、農業生産法人以外の法人や、農作業常時従事者以外の個人でも農地が借りられるように規制が緩和されます。

これは耕作放棄地の対策でもあります。現在、農地情報の収集に取り組んでおり、今後公開したいと思えます。

農商工の出会いをサポート

庄原市にはおいしい農産物がたくさん取れるのに、それを生かす食品加工や販売網が少ない。そんな地域課題を少しでも解決しようと、本年度、しょうばら産学官連携推進機構が「食・ものづくりサロン」を開催しています。このサロンは、農業者をはじめ、食品加工会社、小売業者、そして県立広島大学の研究者などが参加。農産物の規格外品をどのように利用すればいいか、農産物の機能性を生かして新たな商品開発ができないかなど、農商工連携に取り組んでいます。



リンゴジャムなどを試食

農商工連携で 地域を元気に

北 備建設(株)は、新たな雇用の場を求めて、本年度から高野町南地区の工場跡地でキムチ製造を始めた。建設会社が食品分野へ進出するのは市内で初めて。

きっかけは、松森悦子社長が韓国人の友人に勧められ、キムチづくりに夢中になったこと。韓国へ1年半通って研究を続け、社員がモニターとなり納得のいく味を追求した。

「後発の企業なので、普通の名前では売れない。消費者にインパクトを与えたい」と商品に「女子校生キムチ」と名付けた。美肌効果を狙って、漬け汁の中にコラーゲンを入れているのが特徴。パッケージデザインは、庄原市出身の漫画家で週刊マガジンに連載をもつ瀬尾公治さんに依頼した。「キムチは同じようなパッケージが多く、

次に買う時どれだったか分からなくなる。消費者が絶対に間違えないデザインにしたかった」と消費者目線を大切にしている。

地産地消にもこだわり、EM肥料によつて栽培された地元産白菜、大根を使用する。また、他社との差別化を図るため、高野産リンゴを使用し、既存のキムチにはない甘さとうまみを引き出した。地域農産物の需要拡大と商品ブランドの向上を目指すこの取り組みは、農商工連携のモデルとして注目されている。

「ここは昼夜の寒暖の差が激しく、おいしい農産物がたくさん取れる。季節ごとの野菜を使ったオリジナル商品の開発にも取り組み、地域で栽培されたものをすべて買い取れるぐらいがんばって、地域の方に喜んでもらいたい」。地域の農業者と互いに繁栄できる関係を望む。

北備建設(株)の取り組みはマスコミでも話題となり、地元テレビ局をはじめ全国放送でもたびたび取り上げられた。現在、パトを含めて12人を雇用し、月産約1万6千パックを製造。全国各地のスーパー、コンビニ、観光施設などへ卸している。

「短期間で知名度が上げられたので、これを生かしていきたい。今後も商品開発をしっかりとやって、リピータの確保、安定した販路の確保に取り組む。夢は全国制覇」と目標は高い。



「農業でメシを食うための条件」

「農業をやりたい！」と思っても、農業に儲ける仕組みがなければ後継者は育たない。株グリーン・カクエイは農業の企業的経営を目指し、平成14年に市内で初めて建設業から農業参入した。6年間赤字続きだった農業経営を昨年黒字に転換した角田守社長に、「儲ける農業」について聞いた。



株グリーン・カクエイ 社長
角田 守さん

59歳。昭和48年に株角栄組を創業。平成14年から農業に参入。

chapter 04 インタビュー

interview

農業に儲ける仕組みが必要

広島県の食料自給率は今、24%程度まで下がっています。「地産地消」とか「食料自給率を上げよう」と声をかけても、現実には逆に動いていることを受け止めなければいけません。いかに、農業に後継者がいないか、生活ができる産業として成り立っていないかというところが分かります。

後継者が育たないのは、農家の子どもが親の背中を見て育っているから。毎日、朝から晩まで田畑で汗を流しても、全然報われた収入が得られない現状を知っています。だから、親もやらせないし、子どもも農業に魅力を感じません。しかし、夫婦2人で農業して、少なくとも月収30万円の所得があれば、後継者は育つと思います。それがないと、結婚して子どもを育てて、教育を受けさせることができない。農業

農家が求めるのは販売支援

庄原市は滝口市長を先頭に、農林業を基幹産業として地域を元気にしたいと、ビニールハウスなどの施設整備や農機具の購入を補助するなど農家支援に力を入れています。それも必要ですが、農家は「一生懸命作ったものを、農業でメシが食べ続けられる価格で売りさばってほしい」というのが一番の願いです。しかし、その役割は誰も果たしていません。企業的経営をしている農業生産法人は、営業マンを置いて売り方を工夫していますが、一般の農家は人手が少なく栽培するだけで精一杯です。

一番いいのは市がJA庄原と連携して販売支援に乗り出すこと。「農業

に儲ける仕組みを作らないかぎり、後継者不足は解消しません。

でメシが食べ続けられる価格で売ることをお手伝いしましょう」と市に農産物販売課ができた方が市全体の農家のためになります。それは株庄原市農林振興公社がその役割を担ってほしいと思います。3人ぐらい営業のプラ口を置いて、あらゆる販路を開拓すれば、農業で生活できる基盤ができます。

市場のニーズを把握する

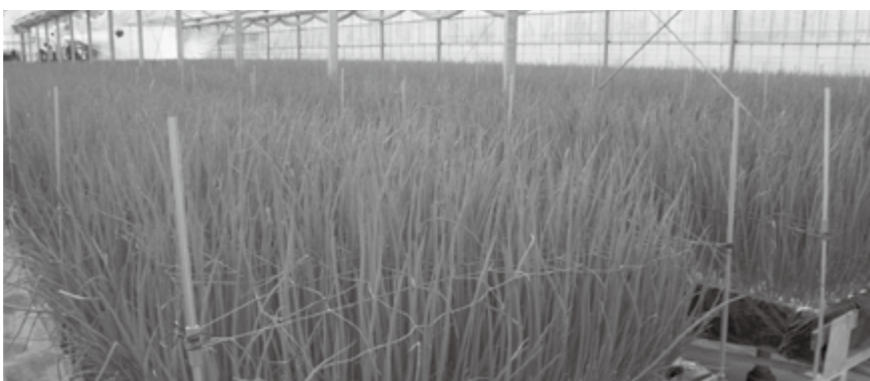
農業経営で大切なのは、販路を持つて売り切ることです。そのためには、いつ・どこで・何が求められているのか、市場のニーズをつかまないとはいけません。しかし、多くの農家は「この時期にこういう商品が足りないから提供してほしい」という市場の情報を知りません。よくある例が、「庄原市で〇〇ができたから買ってください」と売りに行く。それは逆の発想で、市場で何がほしいのか分かっていません。

例えば、キュウリは6月〜8月までいくらでも取れます。その代わり、4本〜5本入って100円と半タダ。しかし、市場がものすごくキュウリをほしがる時期には、300円〜400円と高値で売れます。多くの農家は既成概念で、旬なときに旬な野菜を作りましたが、旬がダブつく時にいくら作っても儲かりません。わたしも6年間、安いときは量でカバーしようと

残業してものすごく作りました。しかし、作れば作るほど安値になる。資材代や人件費、電気代をかけた意味がなく、ダブつく時には売ってはいけないことに気がつきました。キャベツ農家が価格を維持するために、収穫せずにトラクターで耕すのと同じです。原価を知り、安定した売り方をするのが大切。当社がネギで儲かるのは、最もモノがない時期でも安定供給し、一定価格で買い取ってもらえるから。どの野菜でも、品薄になる時期があり、そういうニーズをいち早く農家に提供する仕組みが必要ではないでしょうか。

異業種参入のポイント

①これから農業参入を考える企業は、いきなり儲からないということを覚悟してください。5〜6年赤字が出てもやり続けられるだけの資本金、そして融資の継続性の目途が立ってから参入することが大切です。国や県などの手厚い補助金をもらっても、途中の資金繰りが悪化して倒産する企業は少なくありません。甘やかせるわけではなく、農業を産ませるための費用だけでなく、育成するための費用にも力を入れてほしいと思います。しかし、現実には1回しかチャンスがないので、そのことをよく考えて農業に参入してください。



国の補助金を活用し約9億円をかけて、是松町4.8畝にネギの水耕栽培施設を整備。年間650tを生産し、全国有数の規模を誇る。「これだけの金をかけて失敗したら、後に続く農業者はいない。石にかじりついて成功しなければならぬ責任がある」と角田社長

②市場で有利に販売するには、市場を動かすぐらいの生産量が必要です。「おいしければ売れる」といった甘いものではなく、ある程度の規模がないと交渉のテーブルにもつきません。市場は絶えず安定して物量を確保したいと考えているので、北海道・群馬・岐阜・長野・宮崎・高知などの生産県の力が圧倒的。そのことを踏まえて販売戦略を立ててください。

③規格外農産物を加工に回すなど、農業者が食品加工に取り組んだり、食品会社と連携したりすることによって、農業経営がプラスに転じることは必ずあります。しかし、生産がしつかりしていないのに、中途半端に食品加工に手を出してもだめ。ネギの加工は乾燥とカットがあり、将来的には当社もどこかと組んで加工を目指していきたいと思えます。

課長に聞く

chapter 05 インタビュー interview



農林振興課 課長 平岡 章吾 さん

「新しい風を追い風に」

農業を基幹産業と位置付ける庄原市。それだけに、市の農業政策に対する市民の期待も大きい。農へ吹き始めた新しい風をどう生かすのか、市農林振興課の平岡章吾課長に聞いた。

農業に新しい風が吹いています。

市 の新規就農者が毎年4〜5人で推移している中で、農業外企業や、農業と縁のなかった若者が農業に参入するなど、農業に目が向き始めたことは本市にとつていい風が吹いていると思います。

こうした流れを本物にするためには、農業委員会と連携した農地の斡旋、市の営農指導員や県の北部農業技術指導所による技術支援、国・県・市の補助金による施設整備支援など、関係機関と協力した今まで以上にきめ細やかな取り組みが必要です。

奨励金を受け取りながら農業経営のノウハウが学べる制度は好評です。

本 年度創設した農業後継者育成事業奨励金は、農業を目指す若人をはじめ、後継者不足に悩む地域

にとつてもメリットが大きいと思います。また、国の緊急経済対策事業を活用し、東城地域に新規就農者9人を受け入れ、農業後継者の育成に取り組んでいます。

今後は県立農業技術大学校だけでなく、農業生産法人や農家でも新規就農を目指す研修生をどんどん受け入れてもらつて、そこから独立するという一つの流れができれば、将来に期待が持てると思います。そのためには、この制度を広くPRしていく必要があります。

農業後継者対策に儲ける仕組みづくりが必要です。

経 営規模の大きい認定農業者は、農業生産法人を含め190経営体おられます。そのサンプル調査の結果、平均所得は540万円と決して低くはありません。知恵と技術と体力、努力によつて農業は儲かるというこ

とを若い人に知ってもらうことが大切です。また、市では農業経営基盤の強化について基本的な構想を作成し、市内の優良経営の事例を踏まえて、農業経営の規模、生産方式、経営管理の方法など、営農の類型ごとに効率的で安定的な農業経営の指標を示しています。現在、市のホームページに掲載しており、これらを基にもつと農業の魅力をもPRしていきたいと思っています。

儲ける農業を学べる研修会など、人材育成がポイントになりそうです。

生 産者団体で視察に行ったり、研修を開いたりされていますが、農業経営に関する研修会の開催などソフト面はまだ不足しています。農閑期の冬場を中心に、成功事例・失敗事例を共有したり、外部講師を招いたり、人材育成支援は関係機関と連携して取り組みを強化する必要があります。

市に対して農産物の販売支援が求められています。

本 市では、農業自立振興プロジェクトを策定し、農業による定住社会の復活を目指しています。その取り組みの一環として、営農指導員の設置や(株)庄原市農林振興公社の設立などにより、多様な販売網をつくり農業生産は着実に増加しています。また、JA庄原と協力し、産直市への出荷組織づくりにも取り組んでいます。

これからの農業は、農産物にいかにか付加価値をつけて売るかといった販売重視の施策が必要になっていきます。人材と生産量が確保できる農業生産法人や参入企業は、自ら加工をしたり、販路を確保したり、農産物の価値に見合う販売価格で売る努力をされています。一方で、一般の農家経営では人的・時間的余裕がないため、このような販売活動は難しいのが現実です。

市に販売支援をしてほしいという声について、市は農産物の販売ノウハウを持つJA庄原や農林振興公社と連携・協力する中で、農産物のブランド化やアンテナショップの充実、食品会社との連携による契約栽培など、多様な販売支援に取り組んでいきたいと思っています。

北備建設(株)と地域の農業者のような農工商連携が進めば、農業と食品加工の両方で雇用が生まれそうです。

一 番いいのは、食品加工会社が市内に参入し、地域の農産物を買収するということですが、企業誘致も簡単にはいきませんが、企業誘致されるのは、市内の農業生産法人と食品会社の大商談会を開催し、連携を支援するというもの。生産者と消費者が接点を持つことで、消費者ニーズをつかみ、有利な販売につながると思っています。

今後の農業振興について、最後に一言

本 市の農業は、営農集団や法人などを中心とする大規模個別農家、兼業中心の中小規模の個別農家、さらに農業外参入企業など多様な経営体に分かれています。これら地域実情に即した多様な農畜産業の経営体の、総合的な底上げを支援することが重要と考えられています。また、地域営農の組織づくりや地産

地消の取り組みをさらに進めたいと思います。

国の農業政策は、農業者戸別所得補償制度の導入により農業支援施策が大きく変わろうとしています。その詳細はまだ明らかではありませんが、今後の動向に注視しながら、情報収集と提供に努めていきます。

農業で生活できる環境づくりを進めるため、市は農業者の皆さんや県、JA庄原、農林振興公社など関係機関と連携し、庄原農業の発展に取り組むたいと思っています。

「長年、農業をしていると、既成概念が支配して何かを変えようという発想がなくなってくる」「全く農業を知らない企業や若者にどんどん参入してもらったほうが、農業が活性化するのは」。地域の会合で、このような声が聞かれました。

どこの業界や組織でも同じですが、新鮮な、新しい風が入ると活性化すると聞いています。今回取り上げた農に吹く新しい風は、長年農業に携わってこられた方にも刺激を与え、農業全体が活性化するのはないかと感じました。

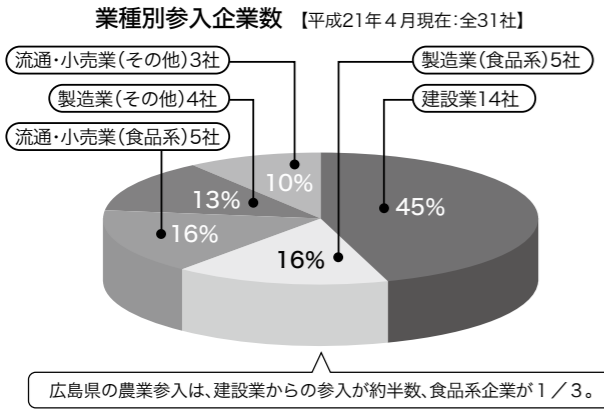
そのためにも、参入企業を含む新たな農業者と地域農家との交流や連携、

取材を終えて

農産物を扱う食品会社と農業者との接点をもつと増えることが必要です。多様な人々がつながることで、顧客の要求に答えられる生産力を確保したり、生産重視の農業が消費との接点で販売力をつけたり、儲ける農業の可能性が広がっていくと思います。そのためのサポートが今、市やJA庄原などに求められています。

現在、公共事業の減少や経済不況で、本市の経済や雇用を支えてきた建設会社が倒産するなど、かつてない危機に直面しています。このまちでずっと暮らしていくために、本市の強みである農業を今一度見つめ直し、「農業でメシが食える地域づくり」を一人一人が真剣に考えてください。広島県の食料自給率は24%。まだまだチャンスがあります。

広島県における農業参入企業の現状



未利用木材を活用しペレット製造

第3セクター

「庄原さとやまペレット株」を設立

政策推進課 0824-73-1113

市は、豊富な森林資源を有効活用する「木質バイオマス活用プロジェクト」の一環として、地元の未利用木材を原料とする「ペレット」の製造施設を整備しています。
11月20日には、ペレット製造および施設の運営を担う事業体として、第3セクター「庄原さとやまペレット株」を設立しました。

地球環境保護と地域活性化を目指す

ペレット製造事業は、放置されてきた未利用の木質バイオマスを新たなエネルギーとして有効活用することにより、循環型社会の構築や二酸化炭素排出量の削減、森林・里山再生といった環境問題への対応、さらにはエネルギーの地産地消や新産業創出による地域活性化を実現することを目的としています。
年間生産量は平成22年度に500トンを、将来的には1千トンを目指します。

第3セクターで事業運営

この事業は、エネルギーの地産地消や里山再生といった「公益的」な目的を持つ一方、地域活性化や新産業創出を図る「経済的」な側面も併せ持つため、第3セクターで運営します。
事業運営を担う庄原さとやまペレット株は、コスト削減と民間ノウハウの活用により収益性を維持しつつ、事業の持つ公益的な目的の達成を目指します。
工場は来年3月に完成する予定。4月からは、会社による庄原産ペレットが製造されます。

人と地域と地球にやさしいまちづくり

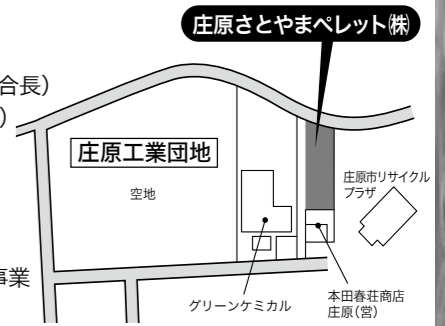
木材価格の低迷や担い手不足・高齢化、あるいは消費者ニーズの変化など、木材事業を取り巻く状況は非常に厳しく、そのため、手入れがされずに荒廃する森林が増加しています。
市は、ペレット原料を事業者だけでなく個人の方からも受け入れるシステムを構築していきます。このシステムは、材を持ち込まれた山元の利益につなげることで身近なところで山の手入れを促進し、森林・里山環境の再生を図ることを目的としています。
庄原さとやまペレット株では、ペレット製造事業を安定的に実施し、公益性と経済性の両側面における効果を創出することで、「人と地域と地球にやさしいバイオマスタウン庄原」の実現を目指します。



ペレット

- #### ペレット製造事業の概要
- ①生産量：平成22年度は500トン/年、最終的には1,000トン/年を目標とする。
 - ②供給先：主に新庁舎や公共施設のボイラー、市内のペレットストーブなどへ供給
 - ③施設・設備：土地、建物、機械を市が整備（農林水産省の補助事業を活用）
 - ④その他：施設屋根には太陽光発電設備を設置します。

- #### 庄原さとやまペレット株の概要
- 市と森林組合、商工会議所・商工会、木材関連事業者、ペレットストーブ販売代理店など20者からの賛同により設立。
 - ①資本金：設立時3,400万円→増資手続きを経て3,600万円になる予定。（うち市の出資金は2,000万円）
 - ②役員：取締役9人、監査役2人
代表取締役社長 藤原澄人（備北森林組合代表理事組合長）
 - ③本店所在地：庄原市松町20番地31（庄原工業団地内）
 - ④設立：平成21年11月20日
 - ⑤主な事業
 - 木質ペレットの製造・販売および原料の収集・加工
 - 木質ペレット製造工場の運営
 - ペレットなどの木質バイオマスの普及啓発に関する事業



地域を元気にする起業を支援

集配事業など4事業を採択

庄原市起業支援補助事業 (コミュニティビジネス支援事業)

「地域を元気にしたい」と、新しくビジネスを始める方を応援する「庄原市起業支援補助事業」に本年度4件の申請があり、審査の結果4件すべてを採択しました。補助金の交付額は4件で1千181万円になります。
この事業は、地域資源の活用や地域課題の解決、地域への経済的な波及効果など、地域の元気づくりを目指すもの。毎年5月末を申請期限として、ビジネスとしての可能性、継続性、地域経済への波及効果の有無などを審査会で確認します。
本年度は、これまで経験や実績を重ねてきた事業が多く、今後の事業展開に期待がされます。

原地域 特産品加工販売事業 「燻ほかほか」

庄原の特産といわれながらも、季節が限定されることや収穫量の問題で、実際に商品として流通させることが難しいアユや溪流魚を、燻製に加工することで土産物などへの展開を図る事業です。加工施設の整備が主な補助内容で、年間を通じて安定的に供給できる特産品として定着することが期待されます。



東地域 農産品ブランド化事業 「小奴可550ライス 有限責任事業組合」

堆肥を使用し農薬散布の回数を抑えるなど、栽培方法を統一した米を中心に、東城町小奴可地区の農産品全般をこだわりの「小奴可ブランド」として確立し、販路拡大・確立を目指す事業です。精米施設などの整備が主な補助内容で、地域ブランドとしての付加価値を高め、農業で儲ける地域を目指します。



採択された事業

原地域 高齢者宅配事業 「株リーフ」

庄原市の周辺地域の買い物代行宅配を行いながら、地域の方が栽培した農産品を収集し販売する、高齢者世帯を対象としたサービスの事業化です。集荷施設などの整備が主な補助内容です。地域の不便を解決するとともに、高齢者世帯の収益向上にもつながることが期待されます。



庄地域 養蜂・加工販売事業 「ながえ蜂蜜工房」

近年減少傾向にあるといわれる、日本蜜蜂（和蜂）による養蜂を市内に広め、蜂蜜を庄原の特産にすることを目指す事業で、蜜蜂の巣箱単位でのレンタルも予定しています。加工施設の整備が主な補助内容です。市内各地域の蜂蜜づくりや、りんご園・いちご畑へのレンタルなど、今後の展開に夢が広がる事業です。



平成22年度事業の受け付けは、来年4月から5月までです。地域の、地域による、地域のための事業をお考えの方は、商工観光課(0824-73-1178)までご相談ください。

ご存知ですか? ジェネリック医薬品

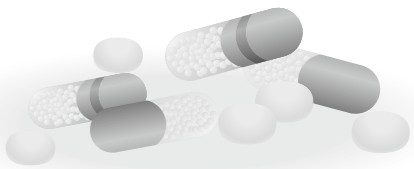
保健医療課国保年金係 ☎0824731158
医療予防係 ☎0824731155

ジェネリック医薬品とは

お医者さんが処方する薬には、新薬(先発医薬品)とジェネリック医薬品(後発医薬品)の2種類があります。その中で、新薬は安全性や効果などの承認を受けるために、多くの時間と経費をかけて開発されています。そのため、新薬には20年〜25年の期間で製造や販売の特許が認められ、開発したメーカーのみが製造と販売を行っています。

ジェネリック医薬品は、新薬の特許期間が切れた後に、新薬と同じ主成分で作られるものをいいます。安全性や効果は新薬で確認されており、開発の時間や経費が少なく、すむので安価に作るができます。

ジェネリック医薬品の種類にもありますが、価格は新薬の2〜8割となり、窓口負担の軽減や健康保険などが支出する医療費の抑制にもつながります。



ジェネリック医薬品 Q&A

庄太郎くん



Q 安くて効果が同じなら、ジェネリック医薬品を処方してもらったほうがお得ですね。どうしたら処方してもらえるの?



A 医療機関を受診する際に、医療保険者が配布する「ジェネリック医薬品希望カード」を医師・薬剤師に提示するなどして、相談されることをお勧めします。ただ、同じ主成分を使っても、薬の種類や治療の内容によっては、すべての新薬がジェネリック医薬品に変更できるとは限りません。医師・薬剤師の指導のもとで、上手に利用していくことが大切です。

除雪作業にご協力ください

県と市は、積雪時の通行確保のため、少しでも早く除雪するように努めています。また、計画的に大型除雪機械を配備し、積雪量の多い地域の除雪作業の効率化に取り組んでいます。

除雪作業は、積雪量や障害物などにより、作業時間を要する場合もあります。また、道路の幅員や構造により、すべての市道を除雪することはできません。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

除雪作業を効率よく行うために

- 車道・歩道上に除雪作業の障害となるものは置かないください。
- 家や駐車場の出入口は注意して除雪していますが、現場状況によっては雪でふさいでしまうことがあります。ご了承ください。
- 道路そばの樹木の枝が積雪でたわみ、通行に支障をきたす場合は、樹木の所有者が撤去するなどの対応をお願いします。なお、特に危険な場合には、伐採させていただくことがあります。



高野地域に新車を配備

問い合わせ

- 【国道・県道の除雪】
広島県北部建設事務所
庄原支所土木課
☎0824722015
(内線4131)
- 【市道・歩道の除雪】
建設課土木係
☎0824731152
- 西城支所環境建設室
☎0824822182
- 東城支所環境建設室
☎0847725141
- 口和支所環境建設室
☎0824872113
- 高野支所環境建設室
☎0824862113
- 比和支所環境建設室
☎0824853003
- 総領支所環境建設室
☎0824883065

「耐震診断」「耐震改修工事」に補助

庄原市木造住宅耐震改修促進事業

都市整備課建築係 ☎0824731151

平成7年の阪神・淡路大震災をはじめ、全国各地で地震により多くの被害が発生していることから、木造住宅の「耐震診断」「耐震改修工事」に係る補助制度を創設しました。安心安全なまちづくりのため、この制度を活用して、住まいの耐震化を進めてください。

補助制度の概要

- 対象建築物
次の①〜⑤すべての項目に該当する市内の木造住宅が対象となります。
- ①在来軸組構法および伝統的構法により、昭和56年5月31日以前に着工し建築されたもの
- ②戸建住宅または併用住宅(延べ面積の1/2以上が住宅のもの)
- ③居住の実態があるもの
- ④3階以下(地階を除く)
- ⑤以前に同一事業による補助金を受けていないもの
- 補助対象者
次の①・②いずれの項目にも該当する方が対象となります。

- 補助額
耐震診断 診断費用の2/3の額以内で限度額4万円
耐震改修工事 工事費用の1/3の額以内で限度額40万円
- 予定戸数
耐震診断 20戸
耐震改修工事 3戸
- 資格者の診断・工事監理が必要

補助を受けるためには、庄原市木造住宅耐震診断設計資格者として庄原市に登録されている建築士が、耐震診断および耐震改修工事の工事監理を行うことが必要です。市では木造住宅耐震診断設計資格者名簿を作成し、都市整備課および市ホームページで公表しています。詳しくは、都市整備課へお問い合わせください。

安心・安全な毎日のために

平成21年度全国統一防火標語

消えるまで ゆっくり火の元
にらめっ!

大切な命を守る住宅用
火災警報器を設置しましょう

全国的に火災は、火気を使用する機会が多い冬季から春先(12月〜3月)にかけて多く発生しています。

住宅火災による死者数は、平成13年以降毎年1千人を超える状況が続いています。このうち、65歳以上の高齢者の割合は約6割を占めており、その原因の多くは逃げ遅れによるものです。

庄原市では、備北地区消防組合火災予防条例により平成23年5月末までに、すべての住宅で住宅用火災警報器を設置することが義務づけられています。

早期に設置し「大切な命」を火災から守りましょう。

AED(自動体外式除細動器)を
正しく使ってくださいのために

平成16年から、一般市民がAED(自動体外式除細動器)を取り扱えるよ



うになって以降、日本全国の自治体、事業所でAEDが設置されています。庄原市では53件の設置が確認されています。(平成21年9月末調べ)
(設置箇所検索ホームページ) <http://www.qqzaidan.jp/AED/aed.htm>

【AED設置者へ】
AEDが普及する一方、メンテナンスも大切な問題の一つです。消耗品のバッテリーは2〜5年で低下し、電極パッドは2〜3年で粘着力が弱くなり使用できなくなります。AED設置者は、日常点検などを行います。

【AEDを安全に使用するため】
消防署では、AEDを用いた救命講習を行っています。大切な人を守るために、応急手当を身につけましょう。申し込み、問い合わせはお近くの消防署(出張所)まで。

平成22年庄原市消防出初式
新春を飾る消防出初式が行われます。
とき 1月10日(日) 9時30分
ところ 庄原市総合体育館



人気の高いリサイクル品の販売

「しょうばらバイオマスフォーラム2009」と「庄原市リサイクルフェスタ」が11月14日、リサイクルプラザで同時開催されました。バイオマスフォーラムでは、ペレットストーブ・ボイラーの展示即売やパネル展のほか、マツタケ生産と里山再生に関する講演など、見て・聞いて・ふれてバイオマスを身近に感じられるイベントに多くの人が集まりました。

また、リサイクルフェスタでは、環境ポスター・標語コンクールの表彰式が行われたほか、リサイクル品や市の不用物品の販売が行われ、多

策進課
環境衛生
推進課

バイオマスと環境を考える一日
バイオマスフォーラム・リサイクルフェスタ

くの人でにぎわいました。来場者の中には、「自転車やタンスなど、新品同様のリサイクル品があり驚いた」といった感想を話す方もいました。



ペレットストーブなどの展示に多くの人が

企画課

研究成果の活用期待膨らむ
県大研究開発助成事業報告会

「県立広島大学研究開発助成事業報告会」を11月9日、庄原市ふれあいセンターで開催し、市民の皆さんや事業者など約80人が参加しました。報告会では、平成20年度で研究期間が満了したものを中心に、ドンダリ豚の肥育やマツタケ山の再生など4件の研究内容を報告。参加者は



マツタケ山の再生について発表する相沢慎一教授

研究成果の地域還元や事業化による地域活性化に向けた取り組みについて理解を深めました。

この事業は、県立広島大学の研究者が所有する知的資源を活用し地域活性化を図るもので、研究内容に対して市が補助金を交付しています。



遠藤社長(左)から岩崎さんへ花束を贈呈

城所
東支

入館者150万人を突破
「リフレッシュハウス東城」が記念セレモニー

「リフレッシュハウス東城」の入館者が11月7日、平成6年9月のオープンから15年余りで150万人を突破しました。

150万人目は家族4人で訪れた岩崎君男さん(松江市宍道町)です。

す玉が割られ、指定管理者となる(株)ニュー東城の遠藤晏史社長から花束や入浴券(20回分)、地元産そばを使用した焼酎が贈られました。また、150万人突破を祝い、先着1000人の入館者にボディソープが配られました。

帝釈峡に紅葉狩りに来た帰りに訪れたという岩崎さんは「初めて訪れて、150万人目と言われてびっくりしました。また温泉に入り来させてもらいます」と話していました。

「リフレッシュハウス東城」は、大浴場や温泉水を利用したプール、トレーニングジム、レストランなどを備え、年間約10万人に利用されています。

健康広場
healthy column

What is the asthma?

「喘息」とは？

喘息は、空気の通り道である気道(気管支など)に炎症が起き、空気の流れ(気流)が制限される病気で、気道はいろいろな吸入刺激に過敏に反応して、発作的に咳、「ゼーゼー」と気管支が鳴る喘鳴、呼吸困難が起きます。気流制限は軽いものから死に至るほどの高度のものまであり、自然に、また治療により回復し可逆的です。しかし、長く罹っている成人の喘息患者の気道では、炎症とその修復が繰り返される過程で気道の壁が厚くなって、気流制限が元に戻りにくくなり、気道の感受性(過敏性)も増します。

成人喘息の特徴

成 成人喘息は過去30年間で約3倍にも増加しているといわれています。小児喘息から持ち越す人や再発する人もいますが、40〜60代で発症する人も少な



西城市民病院 内科

塚本 祐 司

非Aトピー型が5割を占める

くありません。小児と比べて、アレルギーが関与していないケースが多いのが特徴ですが、気管支の慢性的な炎症、喘鳴が出て息苦しくなるという点では、小児喘息と変わりありません。

こ

どもの喘息の9割以上でアレルギーの関与が認められるのに対し、成人の喘息においてアレルギーを発見できるのは5割程度で、残りの5割はアレルギーを発見できない非Aトピー型です。40歳くらいまでは、ダニが最も重要なアレルギーといわれています。かぜやインフルエンザなどのウイルス感染から、喘息を発症するケースもあります。

成人発症が多い

成 人喘息の発症パターンのうち最も多いのは、成人に

なつてから初めて発症するケースです。小児喘息がいったん治療または寛解(長期間、無症状で無治療の状態)にいたつた後に、成人になって再び喘息を発症する場合があります。

アスピリン喘息に注意

ア スピリンや非ステロイド系の消炎剤(風邪薬や痛みどめ等)を服用したり、注射したり、貼つたりすることで、喘息が発症・悪化することがあります。また、鼻ポリープがある場合は、アスピリン喘息に関連する場合があります。注意が必要です。

リモデリング

喘 息の治療が不十分だったりすると、長期にわたり気管支粘膜の炎症状態が続くこと

によって、粘膜組織の線維化が進んで硬くなり、もとの状態に回復しにくくなります。これを気管支の「リモデリング」といいます。気管支のリモデリングは、喘息の慢性化・難治化につながります。成人の喘息が小児に比べて寛解しにくい傾向にあるのは、このリモデリングが一因とも考えられます。

うまく付き合う

小 児喘息の場合70%くらいはよくなりますが、成人喘息は寛解に持ち込むことが難しいといわれています。その理由は、喘息を悪くする要因が小児の場合より多いから、または社会生活上、発作がないときの治療(長期管理薬による予防管理)が十分にできない人が多いため「気管支のリモデリング」が起こりがちだから、などといわれています。治療目標としては、吸入ステロイド剤を基本に適切な治療を行いながら、健康な人とほとんど変わらない日常生活を送ることができるようになることです。

【発作時の気管支の状態】



【正常な気管支の状態】





レシピを見ながら奮闘する学生

生涯学習

先人の教育に対する情熱に触れる
庄原英学校設立125年記念行事

現在の市民会館の場所に開校した庄原英学校が、今年で設立125年を迎えるのを記念して、記念講演会と写真・資料展を11月7日、国営備北丘陵公園で開催しました。

庄原市田園文化センターの武田祐三館長が「庄原英学校設立の背景と歴史」について講演し、続いて県立広島大学の馬本勉准教授が「当時の日本の英語教育」について講演。130人の参加者は庄原英学校設立当時の教育に対する情熱に触れられた。

会場には庄原英学校校舎の写真や当時の教科書など17点が展示されました。

庄原英学校は明治17(1884)年に、庄原の有志が県北初の近代学校として設立し、英学を中心に指導。明治25(1892)年閉校しました。



会場がいっぱいになるほどの盛況

工商観光

市内へ雇用を求め58人が来場
庄原市合同就職面接会

今年で3年目となる「庄原市合同就職面接会」を11月7日、庄原市ふれあいセンターで開催しました。

これは、昨年末から悪化する雇用情勢への対策として企画したもので、市とハローワーク庄原が初めて共同で開催しました。

会場には16企業がブースを構える中、高校生8人をはじめ、20代から30代の若い人を中心に58人の求職者が来場。就職を希望する企業との面接に臨みました。厳しい雇用情勢を反映して、時間いっぱいまで複数の企業をまわる方も多く、熱気あふれる面接会となりました。



企業から説明を受ける求職者

生涯学習

トッポアスリートに学ぶ
レベルアップスポーツ教室

トッポアスリートを招き、スポーツ技術や指導力の向上を図ろうと、庄原市レベルアップスポーツ教室を10月24日、庄原市総合体育館で開催しました。

昨年に引き続き2回目となるバレーボール教室に、市内小中学生5チーム51人が参加。

新潟国体9人制ベスト4のマット女子バレーボール部の選手12人からバスやレシーブの基本技術などを学びました。

教室の合間には選手からサインをもらうなど、参加者と選手のふれあいの時間もあり、参加した石田真美さん(東小6年)は「すごい選手と一緒にバレーボールができて楽しかった。来年も参加したい」と話していました。



トスの技術を学ぶ子どもたち

性児童

県大男子学生が料理に挑戦
男性の家庭参画講座「自炊男子のススメ」

男性の家庭参画を進めるには学生のうちからと、県立広島大学男子学生を対象にした「男の料理教室自炊男子のススメ」を10月27日、庄原市保健センターで行い、3年生から院生まで6人が参加しました。

参加者は、市の栄養士の指導を受けながら、ポークチャップ、ブロッコリーのホットサラダなど4品のメニューに挑戦しました。ぎこちない手つきで野菜を切る人、手際の良い人と、料理経験もさまざまでしたが、協力して自分たちで作った料理を満足そうに食べていました。

普段ほとんど自炊をせず、コンビニや外食に頼っているという学生が多く、「4品目も作ると段取りが難しかった。まずは手軽にできる料理から覚え、社会人になっても続けていきたい」と話していました。

性児童

お互いを尊重した関係に
庄原実業で「デートDV講座」

11月10日、県立庄原実業高校の全校生徒約400人を対象とした「デートDV防止講座」を開催しました。

講師の(財)広島県女性会議主任相談員の坂本てるみさんは、相談事例を基に創作したある高校生カップルの物語を紹介。メールの返信をすぐにしないと怒られる、友だちよりも彼を優先させるなど、いくつものエピソードを取り上げて、そのときの彼女の気持ちとともに「一つずつ解説し、「束縛は愛ではありません。お互いの気持ちを尊重した恋愛をしてください」と呼びかけました。

講演を聞いた生徒は、「殴ったり、蹴ったりでなくても、相手を怖がらせるようなことをするのも暴力だと知ってびっくりした」「もし友だちが悩んでいたら、ずっと気にかけてあげることが大切だとわかった」と話していました。

※デートDVとは、恋人からの身体的、精神的、経済的、性的暴力のことをいいます。

健康医療

今の食事が未来の自分をつくる
庄原市食育講演会

広島文教女子大学の松原知子教授を講師に招き、「庄原市食育講演会」を10月21日、庄原市ふれあいセンターで開催しました。

講演では、さまざまな「こしょく」(弧食・小食・個食・固食・粉食)、朝ごはんの役割、お弁当箱を用いたバランスの良い食事の摂り方など、日々の食生活に役立つ身近な話題を提供し、幅広く「食」について考える機会となりました。

講演を聞いた参加者は「もつとバランスを考えて食事をしよう」「メタボにならないように気をつけよう」などと話していました。



庄原実業高校の生徒も参加



「何でも相談してほしい」と講師の坂本さん



ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT ③

地域の人とハロウィンパーティー 下高保育所で収穫祭



▲プレゼントをもらう園児

下高保育所が10月30日、畑づくりでお世話になった地域の人を招いて、収穫祭を兼ねたハロウィンパーティーを開きました。保育室や廊下には、カボチャなどの飾りを置き、ハロウィンの雰囲気を出し、園児や先生は、お化けや魔女のハロウィンのコスチュームに身を包み、歌や踊り、手品などを披露しました。かわいい園児が「トリック・オア・トリート(お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ)」と唱えると、地域の人からプレゼントが手渡され喜びました。また、地域の人と一緒に収穫したサツマイモを焼き芋にしたり、りんごを食べたり、楽しいひと時を過ごしました。



農村絵巻や秋の味覚を楽しむ 比和やまびこ祭

REPORT ④

◀ 比和牛供養田植

多くの人々が集まった
歌謡ショー



ました。会場内には、地元の特産市場や自治振興区などが出店し、来場者は新鮮な農産物や加工品、比婆牛もも肉の

丸焼きなど、地元ならではの味覚を楽しみました。同時開催の「からだいきいき健康まつり」では、骨密度や筋肉量、血圧などを測定し、いきいき度をチェック。参加者は「健康を見直すきっかけになった」と喜んでいました。

「第17回比和やまびこ祭」と「からだいきいき健康まつり」が10月25日、比和総合運動公園で開催され、親子連れなど約2,500人でにぎわいました。比和中学校と比和町郷土芸能振興会が、広島県無形民俗文化財の「比和牛供養田植」を囃子に合わせて披露。今回初めて和牛2頭が登場し、農村絵巻をかきまわす情景を繰り広げました。ステージでは、比和小学校の合唱や林あさ美さんの歌謡ショーなどが行われ、大きな声援と拍手に包まれ

REPORT ⑤

収穫の秋 園庭で大釜料理 総領保育所「秋のみのりの感謝祭」



▲園庭で豚汁とむすび、焼き芋を食べる

総領保育所が11月5日、地域の人を招いて「秋のみのりの感謝祭」を行いました。秋空の下、園庭に大釜を置き、薪を焚いて保育所の畑でできた大きなサツマイモやニンジンをつぶり入れた豚汁を作りました。園児は地域の人に教えてもらいながら、野菜を洗ったり皮をむいたり、切ったりして大釜に入れると、火吹き竹を使って火の勢いを大きくし「楽しみ。早くできんかな」「なんかいい匂いがしてきたよ」と楽しみに待っていました。また、新米と、保育所で採れた梅の実で作ってもらった梅干を入れて、たくさんのむすびを年長児が作りました。園児は、暑い夏にバケツで水やりや草取りをしてサツマイモやニンジンを作ったこと、地域の人と泥んこになって田植えをしたことなどを振り返りながら、お腹いっぱい「みのりの秋」を楽しみました。

大正ロマン展や手作り作品展 東城まちなみぶらり散歩ギャラリー

REPORT ①



▲母衣の行列

10月30日から11月5日までの7日間、東城本町筋で「城下町東城まちなみぶらり散歩ギャラリー」が開催されました。まちなかが城下町のたたずまいを生かしたギャラリーに生まれ変わり、躍動感あふれる絵手紙や東城の風景を描いた絵画などを展示。和製ランプやガラス製の氷コップなどで空間を演出した大正ロマン展や手作り作品の展示なども行われました。大勢の観光客は、作品を見たり、買物を楽しんだり、生演奏や食事を楽しんだり、思い思いの散策を楽しみました。期間中には、「平成の貝合わせ」や、まちなみライトアップを楽しむ「ヴァイオリンとピアノのコンサート」、伝統行事「お通り」も開催され、秋の東城に華やかな彩りを添えました。



▲店先に展示された切り絵

REPORT ②

七塚原高原に子どもの笑顔輝く 「こどもまつり」で子育て世代を応援

『高原に広がるこどもの時間～時を忘れてあそぼーや！～』をテーマに「第9回こどもまつり」が10月25日、高原の家七塚で行われ、親子連れや一般市民など2,800人が秋の一日を楽しみました。市内の各団体が構成する庄原市こどもまつり実行委員会が企画。庄原格致高等学校吹奏楽部の演奏で幕開けし、庄原市永江太鼓保存会の力強い演舞で盛り上がる中、子育てサークルやボランティア団体のアトラクション、保護者や地域の方による手づくり感あふれる



▲大盛況！子ども服のリサイクル広場



▲ダンボール迷路で夢中になって遊ぶ子ども

る体験コーナーで、子どもたちは時を忘れて楽しんでいました。企画・広報・準備・提供をすべてお母さんたちで実施した「子ども服のリサイクル広場」には、今回も多くの育児グッズが寄せられました。たくさんの親子でにぎわう中、「とても助かっている。今度はわたしも提供したい」というお母さんの声も聞かれました。



ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT ⑨

芸術の秋 市民の力作158点 庄原市美術展覧会



▲前期展で展示された書の作品

第5回庄原市美術展覧会が田園文化センターで開催され、市民から応募があった作品158点が展示されま

した。

この展覧会は11月3日～8日の前期展(工芸・書・彫塑)と、11月12日～16日の後期展(日本画・洋画・写真)の2回に分けて行われ、延べ900人が来場しました。

来場者は「力作ぞろいすごいですね」と、作品1点1点じっくりと鑑賞していました。

応募作品の中から各部門で大賞と奨励賞が選ばれました。大賞は工芸部門が国原文夫さん(中本町)、永宗愛子さん(宮内町)、前田多寿子(西城町)、書(かな)部門が安部ミヨコさん(口和町)、書(漢字)部門が滝口利子さん(上谷町)、須田美年子さん(東城町)、彫塑の部が滝口吉隆さん(平和町)、日本画部門が原田圭輔さん(西城町)、洋画部門が高瀬伸吾さん(西城町)、写真の部が猫田薫さん(上原町)。

"いいいろ塗装の日"で奉仕活動 山内保育所の遊具などを塗装

REPORT ⑩

社団法人日本塗装工業会が「いいいろ塗装の日」と定め、全国各地で社会奉仕活動を展開する11月16日、広島県支部北部地区が山内保育所で、遊具や藤棚などの塗装作業を行いました。

作業が終わるのを待ちかねたように園庭に飛び出した園児は、鮮やかな色に生まれ変わった登り棒やブランコを見て大喜び。「きれいにしてくれてありがとう」と大きな声でお礼を言っていました。



遊具にペンキを塗る会員▶

REPORT ⑪

中学生が勇壮な舞を披露 口和町で中学生神楽共演大会

中学生神楽共演大会が11月7日、口和ヒューマンライツで開催されました。神楽に取り組む中学生が交流と伝統文化の継承を目的とするこの大会は、今回で3回目。開催地となった口和中学校神楽同好会をはじめ、作木中学校2年生、美土里中学校神楽同好会が参加し、得意の演目で勇壮な舞を披露しました。

口和中学校は、大和武と当八の掛け合いが見どころにもなる「伊吹山」を演じ、即興の掛け合いを見せて客席を笑わせる一幕や、勇壮に悪鬼と悪蛇を退治する大和武の舞に大きな拍手が起きました。

生徒は「お互いの舞に刺激を受けた。他校から学んだことを今後の公演に生かしたい」と話していました。



悪蛇を退治する大和武の舞▶

歌謡ショーやトークに笑顔 ふれあい東城まつり

REPORT ⑥

第27回ふれあい東城まつりが10月25日、東城小学校グラウンドをメイン会場に開催されました。

東城保育所園児による竹太鼓の演技や女性組織連絡協議会の優雅な踊り、色とりどりの風船が舞い上がるスパークバルーンで開幕。秋の味覚を楽しめる屋台テントが並び、はしご車搭乗体験やマンモグラフィをはじめとした健康診断などのイベントが行われました。

ステージでは、東城の歌自慢が集結した「ふれあいのど自慢」のほか、「美空ひばりさんのそっくりショー」や元びんから兄弟の「宮史郎歌謡ショー」などが行われました。来場した人々は、トークで笑い、歌声に聞き惚れ、笑顔が絶えないにぎやかな1日となりました。



▲歌謡ショーを楽しむ多くの人

24日は前夜祭「ふれあいの夕べ」で音楽芸能発表が行われたほか、17日から3日間、書道や生け花などの作品が展示されました。

REPORT ⑦

学校公開でしめ縄・リース作り 永末小ふれあい交流会



▲しめ縄づくりを学ぶ子ども

保護者や地域の人に元気な子どもたちの姿を見てもらおうと、永末小学校が11月5日、「ふれあい交流会」を開催しました。これは、広島県の「学校へ行こう週間」

にあわせて行われ、保護者や地域の人約40人が参観。永末太鼓や合唱を元気いっぱい披露しました。

続いて行われた「しめ縄・リース作り」では、下森作一さんが「手のひらでワラをゆっくりこすり合わせて」と手本を示し、子どもたちはおじいちゃんやおばあちゃんなどと一緒にしめ縄を作りました。しめ縄には木の葉やどんぐりなどを飾りつけリースにし、「部屋に飾りたい」と満足そうに見せていました。

下森さんは「この年になって、子どもたちと交流できるのはうれしい。太鼓も合唱もすばらしかった」と喜んでいました。

広島県は、学校教育に対する理解と関心を深めようと、毎年11月1日～7日を「学校へ行こう週間」と定め、学校を地域の人に公開する活動を行っています。

火災のないまちづくりに一役 聖慈保育園が消防車両を描く

REPORT ⑧

秋の全国火災予防運動にあわせて、聖慈保育園の園児が11月4日、消防車両の写生会を行いました。

園児は、かっこいい消防車両に目を輝かせていましたが、消防署員から火災の恐ろしさや火災のないまちづくりについてお願いがあったときには、真剣なまなざしで話を聞いていました。

その後、思い思いに消防車両を描き、勇壮な消防車の絵ができ上がりました。

この日描いた絵は、11月9日～16日の1週間、口和支所に展示され、「火災のないまちづくり」を訴えました。



▲消防車両を描く園児

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT 12

紅葉の名所へハイキング
弁当をもって大富山に登ろう



▲真っ赤に色づいたモミジの下で弁当を広げる参加者

11月8日、西城市街地が見渡せる紅葉の名所大富山で「弁当をもって大富山に登ろう」と題したイベント

が開催され、西城地域の住民約60人が山頂を目指しました。

大富山ふもとの西城小学校に集合し、約2kmの登山道をゆっくりのんびり歩いて山頂に到着。参加者全員で落ち葉拾いや枝木の撤去作業を行った後、手づくり弁当を広げ、ちょうど見頃の紅葉を楽しみました。

大富山は西城市街地の南西に位置し、標高は511m。地元の五町自治振興区は、西城小学校の校歌にもうたわれる大富山を、より身近な住民の憩いの場にしようと、山頂の公園化や登山道の整備、草刈りに取り組んでいます。また、備北商工会と西城町観光協会では、気軽に登れる大富山への登山を秋の恒例行事としてしています。

車いす地域で役立てて
庄原市体育協会比和支部が寄贈



實延さん(右)と三玉支所長(左)▶

庄原市体育協会比和支部から市役所比和支所へ車いす2台が寄贈されました。

この車いすは、県グランドゴルフ協会の会員が大会でホールインワンを出すたびに積み立ててきた100円基金を活用して購入したものです。

比和支部長の實延卓爾さんから車いすが手渡されると、三玉政則支所長は「地域住民の皆さんのために有効活用していきます」と感謝の言葉を述べました。

REPORT 14

高めたい地域の福祉力
認知症介護予防講座



▲講演する武原施設長

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、「認知症介護予防講座」が10月31日、庄原市民会館で開かれました。

この講座は、庄原市が医療法人社団聖仁会に委託して実施している講座で、今年8回目。市民450人が参加しました。

第1部の地域からの活動報告では、上谷地区の小地

域サロンの取り組みや、庄原中学校からデイサービスでの職場体験の報告などが行われました。

第2部は、長崎県吉岐市の特別養護老人ホーム「光の苑」の武原光志施設長が「認知症高齢者を地域で支える」と題して講演。「認知症高齢者を支えるために、医療・福祉関係者と地域がネットワークを作ろう」と呼びかけました。

認知症の方を地域で支える「認知症サポーター」も庄原市では3,000人を超えています。参加者は「自身の家族が認知症になったとき、本当の意味で家族が力を合わせて支えるという視点や、地域の福祉力を高める取り組みを進めていきたい」と話していました。

生活相談

身体障害者補装具判定会

〔聴覚〕 12月17日(木) 受付 13時~14時

ところ 広島県北部保健所 ※1週間前までに社会福祉課障害者福祉係へ予約を。 ☎0824-73-1210

人権相談(特設)

各地域で人権擁護委員が相談に応じます。

●庄原地域 とき 1月12日(火) 13時30分~16時30分

●東城地域 とき 1月7日(木) 13時30分~16時30分

●総領地域 とき 1月12日(火) 9時~11時

総領健康福祉センター 三成人権擁護委員協議会 ☎0824-622-2572

定期巡回児童相談

北部子ども家庭センターが子育てに関する相談に応じます。

●庄原地域 とき 12月17日(木) 10時~15時

ところ 庄原市ふれあいセンター ※1週間前までに女性児童課子育て支援係へ予約を。 ☎0824-73-0051

●東城地域 とき 12月18日(金) 10時~15時

ところ 東城支所 ※1週間前までに東城支所保健福祉室へ予約を。 ☎08477-2-5131

障害者相談員定期相談会

〔庄原地域〕 ●身体 1月18日(月) 13時30分~16時30分

●知的 1月12日(火) 13時30分~16時30分

ところ 庄原市ふれあいセンター ※事前予約もできます。 問い合わせ 社会福祉課障害者福祉係 ☎0824-73-1210

催し

まちなかイルミネーション

昨年の「シンボルツリーイルミネーション」に加えて、今年は紅梅通り、市役所周辺までエリアを拡大。テーマは「冬の花畑で遊ぶ森の動物たち」。新たに「レーザー光線」を使った最新のイルミが登場します。

この事業は、庄原地域のクラスタのまちづくりの一環です。

期間 12月4日(金)~1月15日(金) 点灯時間 17時~22時

ところ 市街地周辺(榮笑座横ヶヤキ・上野池など) 問い合わせ 光のまち庄原実行委員会(事務局/庄原観光協会) ☎0824-73-0602

さとやま地域交流会

姜曉艶さんの二胡演奏をお楽しみください。昼食はさとやま特製カレーライスを用意しています。 とき 12月20日(日) 11時~15時

ところ さとやま交流館(西城町大佐)

募集

「備北の風土」写真コンテスト作品募集

備北地域の風土を再発見する写真コンテストです。

題材 備北の自然や生活文化を題材にしたもの(撮影地は三次市・庄原市内)

規格 ○銀塩・デジタルどちらも可 ○4ツ切り(ワイド可) ○額装またはパネル貼り ○1人2点以内(未発表のもの)

出品料 1点につき1500円 (三次市文化連盟・庄原市文化協会の会員は1000円)

応募資格 三次市・庄原市に居住または勤務する方 搬入 1月21日(木)~22日(金)

ごみ収集カレンダーへ広告を

市が作成する平成22年度版の「ごみ収集カレンダー」への広告掲載を募集します。

募集枠 12枠 規格 縦3マ×横25マ (見開カレンダー)

配布部数 市内全世帯へ約1万6千部配布 広告料金 1枠1万円 募集期間 12月22日(火)まで

※応募多数の場合は、市内の方を優先し、先着順とします。 申し込み・問い合わせ 財政課理財係 ☎0824-73-1202

市内の主な施設 年末年始の業務状況

年末年始の業務予定については、次の表の通りです。スミの部分が休業日となりますのでご確認ください。
なお、「出生」、「死亡」、「婚姻」など戸籍に関する届け出や、埋火葬、斎場使用の許可手続などは、休み中でも取り扱います。詳しくは担当課までお問い合わせください。

施設名	電話番号	12/26(土)	12/27(日)	12/28(月)	12/29(火)	12/30(水)	12/31(木)	1/1(金)	1/2(土)	1/3(日)	1/4(月)	1/5(火)
市役所(本庁・各支所)	☎0824-73-1123											
保健センター	☎0824-72-7074											
田園文化センター	☎0824-72-1159											
総合体育館	☎0824-72-8000				17時まで							
ふれあいセンター	☎0824-75-0301											
市民会館	☎0824-72-0849											
西城市民病院	☎0824-82-2611									(休日でも救急は24時間対応)		
時悠館	☎08477-6-0161											
収集												
ごみ処理												
持ち込み												
備北クリーンセンター	☎0824-72-2044											
リサイクルプラザ	☎0824-72-1398											
東城クリーンセンター	☎08477-2-0214											
東城資源ごみ集積所	☎08477-2-1026											
指定金融機関市役所派出所	☎0824-73-1142									16時まで		

☐が休業日 ※その他の施設については、直接各施設へお問い合わせください。

35万球 光の森のファンタジー
**ウインター
イルミネーション2009 開催中!!**
～ハートフル&ファンタスティックイルミネーション～

12月27日(日)まで ※休園日:12月7日、14日

備北公園管理センター
☎0824-72-7000 (<http://www.bihoku-park.go.jp/>)

備北丘陵公園
だより



公園の冬の風物詩「ウインターイルミネーション」が始まっています。県内をはじめ関西、四国、九州からもご来園いただいている冬

の一大イベントです。この季節、全国各地のイルミネーションが話題になります。当公園のイルミネーションは自然の地形を生かしたデザインが好評で、全国的にも知名度が高まってきました。

会場には手作りのオブジェやイルミネーションも置かれ、市民の皆さんと作り上げる光の景色ならではの「やさしさ」「ぬくもり」も感じることが出来ます。

イルミネーションの会場
会場は「メイン会場」と「北入口会場」の2つです。「メイン会場」は中入口周辺(中の広場、ひばの里)です。「北入口会場」は、北入口周辺、エントランスセンター、国兼と湖畔広場です。それぞれの会場には売店、軽食コーナーがあります。

すてきなディナーを
エントランスセンター2階「展望レストラン」にかね「フレンチディナー」は、11月21日から12月20日まで

の土・日曜日と、12月21日(月)～12月27日(日)の毎日行っています。完全予約制、1日30名様限定。一人3500円。

予約 「中の茶屋」
☎0824-72-7211

駐車場は6カ所
公園には駐車場が6カ所あります。公園の入口などで係員がご案内します。駐車状況に合わせて園内無料シャトルバスが走りますので、行き先に合わせてご利用ください。

クラフト教室を開催
明るい時間に着いて、イルミネーションが点灯するまでクラフト作りで過ごします。おすすめの過ごし方です。蜜蝋のキャンドル(11月21日・23日)、型染めカード(11月28日・29日)、リース(12月5日・6日)、こけ玉(12月12日・13日)、スイーツのよいうなキャンドル&アロマキャンドル(12月20日・23日)など。このほか、コンサートを土・日・祝日に開催します。

あっぱれ庄原
全国レベルの大会出場者、全国・県レベルの大会、市が共催する各種大会などの上位入賞者を掲載します。(敬称略)

全国大会

- 全日本杖道大会 (10月18日・横須賀市)
 - 段別試合二段の部 第8位 谷口 桃子(三次高2年・本村町)
 - 段別試合三段の部 優勝 堀江 亮介(庄原格致高3年)
 - 優勝 谷口 裕基(三次高3年・本村町)
 - 優勝 佐倉 康隆(呉工業専3年小用町)
- 中国なぎなた選手権大会 (11月1日・岡山市)
 - 演技競技 中学生ベアの部 準優勝 森本真由子(西城中3年)
 - 足立 龍邦(庄原中3年)
 - 高校生の部 準優勝 足立 朱穂(庄原実業2年)

県大会

- 試合競技 中学生男子の部 優勝 足立 龍邦(庄原中3年)
- 中学生女子の部 第3位 森本真由子(西城中3年)
- 広島県卓球選手権大会 (9月23日・広島市)
 - 女子中学1年生以下 シングルス 優勝 山本亜由美(庄原中1年)
 - 女子中学2年生以下 シングルス 優勝 堀田真奈美(庄原中2年)
- 広島県高等学校 駅伝競走大会 (11月1日・三次市)
 - 優勝 藤川 拓也 (世羅高2年・水越町)

その他

- 庄原市民健康づくりグラウンド・ゴルフ大会 (10月31日・庄原市)
 - 団体戦男性の部 優勝 帝釈・B 準優勝 東城・中・A
- 個人戦女性の部 第3位 庄原男子D
- 団体戦女性の部 優勝 帝釈・C 準優勝 田森・C 第3位 東城・中・C
- 個人戦男性の部 優勝 谷繁 一夫(東城・中・A) 準優勝 藤原 公昭(高野男子) 第3位 渡部 保(庄原男子D) 第4位 木村 逸則(帝釈・B) 第5位 船頭 宏(庄原男子D)
- 個人戦女性の部 優勝 山本 絹江(東城・中・C) 準優勝 八藤トシ子(帝釈・C) 第3位 市川美津子(庄原女子D) 第4位 長谷マズミ(庄原女子C) 第5位 伊藤ハルミ(帝釈・C)

光と音のハーモニーをお楽しみください。

年末年始の開園日について
年内は30日(水)まで開園します。31日(木)、1月1日(祝)は休園日です。新年は1月2日(土)から開園します。

広告 「この社会あなたの税がいきている」
— インターネットで申告・納税できる —
利用推進運動中
e-Tax (国税電子申告・納税システム) <http://www.e-tax.nta.go.jp>

めざまし
よき経営者による 正しい納税で
企業の繁栄と社会への貢献

社団法人 庄原法人会
〒727-0011 広島県庄原市東本町1-2-22 (庄原商工会議所会館内)
TEL 0824-72-1889 (FAX兼用)
HP: <http://www.10.ocn.ne.jp/~shk/>

広告 住まいの相談所 建築工事業 許可(般-18)第1845号 公共下水道登録番号128号

有限会社 藤本工務店
FUJIMOTO
☎(0824)72-3146
下水道及び浄化槽設置承ります
<http://www.10.ocn.ne.jp/~fujimo-k/index.html>

新・増改築
家のよろずや万屋

人の動き
平成21年10月末日現在

●住民基本台帳登録人口
人口 41,253人(前年比-560人)
男 19,579人(前年比-239人)
女 21,674人(前年比-321人)
世帯数 16,081世帯(前年比-33世帯)

●外国人登録人口
人口 317人(前年比-20人)

**市税・水道料金・下水道使用料
納付は口座振替が便利です**

手続きは各金融機関の窓口でお願いします。
※残高確認も忘れないでください。

●税務課収納係 ☎0824-73-1145
●下水道課管理係 ☎0824-73-1175
●水道課業務係 ☎0824-73-1197

しょうばら九日市

毎月9日は、しょうばら九日市
★出展者募集中! あなたのお店を開こう。
★毎月20日が出店申込締切です。
★申し込みは
交流サロンラッキー ☎0824-72-0075まで
1月 《とき》1月9日(土) 10時~14時
《ところ》中本町商店街周辺
(のぼりが目印)
詳しくはHPで <http://kunchi-ichi.main.jp>

【お詫びと訂正】

広報しょうばら11月号の23ページ、「遊休施設を活用し竹肥料づくり」の記事の中で、30%を30%と誤って記述しました。訂正し、お詫びいたします。

広報日記

特集でも触れましたが、地元建設業の仕事が減少しています。「国は公共事業削減という、全国一律に削減する。東京ではサービス業が発展し、経済への影響が少ないかもしれないが、地方、特に中山間地域では、地域経済への影響がものすごく大きい」。取材中、こんな声を聞きました。長年、建設会社は冬期間の道路除雪も担ってきました。これが、建設会社の倒産により、除雪体制を維持することが年々厳しさを増していると聞きます。「コンクリートから人へ」という予算配分が支持される一方で、このまंचで安心して暮らしていける、地域の実情に沿ったバランス感覚も求められています。☺

犬・猫の引き取り
☎環境衛生課 ☎0824-72-1398

12月・1月の犬・猫の引き取りは、次の日程で実施します。
なお、手続きには認印が必要です。持参してください。

庄原地域	毎月第1~第4火曜日 12月8日・15日 1月5日・12日・19日・26日	11:00~11:10 東自治振興センター 11:25~11:35 市役所車庫 11:50~12:00 敷信自治振興センター
西城地域	毎月第1・第3木曜日 12月17日・1月7日・21日	9:00~ 9:10 西城支所前
東城地域	毎月第1・第3木曜日 12月17日・1月7日・21日	9:40~ 9:50 小奴可研修センター 10:20~10:30 東城文化会館
口和地域	12月第2月曜日12月14日 1月第4木曜日1月28日	11:40~11:50 口和支所前駐車場
高野地域	12月第2月曜日12月14日 1月第4木曜日1月28日	13:20~13:30 高野支所横
比和地域	12月第2月曜日12月14日 1月第4木曜日1月28日	13:50~14:00 比和支所
総領地域	毎月第2水曜日 12月9日・1月13日	9:40~ 9:50 総領支所 (スクールバス駐車場)

※年末年始の引き取りを12月18日(金)~1月4日(月)まで休みますので、庄原・口和・高野・比和地域の日程は変更しています。

ふれあい市長室の日程
☎企画課広報統計係 ☎0824-73-1159

◎とき 1月9日(土) 9時~12時
◎ところ 総領支所
※公務により実施できない場合もあります。
※道路の改良・維持・修繕などの要望、陳情は、事業担当課へお願いします。

男女共同参画コーナー 女性児童課 ☎0824-73-1243
パパの育休

まだまだめずらしいパパの育児休業。「休業中の生活費の保障がない」「仕事を任せられる人がいない」「職場の理解が得られない」など、男性が育休を取得するには、多くの課題があります。
お父さんや家族、地域みんなで子育てに関われるよう、いろいろな支援や制度を活用していきたいですね。

育児休業取得率

	平成8年	平成19年
女性	49.1%	89.7%
男性	0.12%	1.56%

女性の取得率が約9割と浸透しているのに対し、男性の取得率はわずか1%です。

※厚生労働省「平成19年度雇用均等基本調査」より

配偶者・パートナーからの
暴力(DV)で悩んでいませんか
~あなたは“ひとり”じゃない~

広島県西部子ども家庭センター 女性相談課
(配偶者暴力相談支援センター・婦人相談所) ☎082-254-0391

広島県北部子ども家庭センター 相談援助課
(配偶者暴力相談支援センター) ☎0824-63-5181 (内線2313)

庄原市役所 女性児童課 ☎0824-73-1243

口和郷土資料館 ☎0824-87-2230
開館日 月・木・土 9時~17時

ビデオテープレコーダー

これは昭和40年に発売された、ソニーの家庭用ビデオテープレコーダーです。当時としては画期的に小型軽量化されているのが大きな特徴です。オープン式のテープを使い、回転する2つのヘッドで白黒画像を、固定ヘッドで音声を約1時間録画と再生ができる、現在のビデオ時代の幕開けとなったものです。ちなみに、販売価格は198,000円でした。

初期のテレビ画像は、16ミリ映画フィルムを使った光学式のものでしたが、昭和31年に音声用テープレコーダーと同様の録画ができる機械がアメリカで開発されました。日本へはTV放送用で昭和33年に輸入されていますが、約300%と重く、ビデオテープ1本の価格も100万円と大変高価でした。日本では、昭和28年にソニーの前身・東京通信工業で試作機が作られ、昭和39年の東京オリンピックを目指して、各メーカーが本格的に研究開発を進めました。昭和44年頃には、カラー画像の録画もできるようになり、テープもオープン式からカセット式になりました。

その後、画質の改善とともに小型化が進み、昭和50年頃にベーターマックスやVHSが発売され、家庭用として普及していきます。また、カメラと一体化して、屋外で手軽に使えるようになりました。
現在では、家庭用からテレビ放送用まで、これらの研究と開発、生産の多くが日本で行われており、録画方式もテープからDVDディスクとなり、デジタル化が進んでいます。



当館では、第1号のベーターマックスやVHSなど、ビデオ時代を築いてきた機器を使える状態で展示しています。

幅:40cm
奥行き:34cm
高さ:20cm
重量:約14kg(灯油18L位)

休日診療のご案内

12月・1月の休日診療については、次のとおりです。

●庄原地域

12月13日(日)	藤野医院	☎0824-72-4646
20日(日)	毛利医院	☎0824-72-2863
23日(水)	戸谷医院	☎0824-72-3131
27日(日)	児玉医院(川北町)	☎0824-72-0147
31日(木)	笠間医院	☎0824-72-0535
1月1日(金)	田淵医院	☎0824-72-3900
2日(土)	庄原赤十字病院	☎0824-72-3111
3日(日)	藤野医院	☎0824-72-4646
10日(日)	林医院	☎0824-72-0121

**市民ギャラリー「アート多愛夢」
情報BOX**

市街地の空き店舗を活用した、各種展示ができる市民ギャラリーです。

「庄原子ども美術館作品展」
とき 1月9日(土)~12日(火)
10時~17時
☎庄原市文化協会事務局 ☎0824-72-5453
商工観光課商工観光係 ☎0824-73-1179
※展示を希望される団体(または個人)はお申し込みください。使用料はおりません。

ゆめさくら ☎0824-75-4411

【12~1月のイベント情報】
▶ゆめさくら講座
◎かずら教室
~取っ手付きの大籠~
とき 1月15日(金)10時~12時
参加費 1,800円 定員 20人

▶展示
◎手仕事 里山の干支展
期間 12月10日(木)~1月31日(日)

▶歳末感謝祭
12月23日(水)~25日(金)

【年末年始の営業日】
12月29日(火)は営業
12月31日(木)~1月3日(日)休館
初売りは1月4日(月)
【営業時間の変更】
1月~3月の閉館時間は17時
朝どり市は通常通り16時



実行委員長 児玉 節さん(川北町)

子どもミュージカルをやると、子どもはすごい可能性を持っていることが分かります。その可能性を引き出すためにも、子どもが力を発揮できる場所を大人がきちんと保障してやるのが大切だと感じています。それはスポーツでも勉強でもいいのです。子どもミュージカルは、これからは「自分を表現できる温かい場所」であり続けたいと思います。



横谷さとみさん、まなみさん(上原町)

一つの作品を通して、みんなの心がまとまるという経験。これが魅力です。本番が近くなればなるほど、友だちが増えたり、これまで話さなかった子と仲良くなったり、子どもが喜んでます。



西村加代美さん、文さん(戸郷町)

増田先生をはじめ大阪スタッフ、そして実行委員の皆さん。ミュージカルに参加した子どもたちは、こんな温かい方々に見守られて、本当に幸福だと思います。この幸福がまだまだ続くよう私たちもがんばりたいと思います。



田盛 望さん(西城中1年)

子どもミュージカルに参加して4年目になります。良かったことは、いろんな地域の人と友だちになれること。そして、プロの指導者に教えてもらい、おもいっきり歌ったり、踊ったりできるので本当に楽しいです。

子どもの「笑顔」育み10年

庄原こどもミュージカル

庄原こどもミュージカルが10月18日、市民会館で舞台「ふしぎの国のアリス」を上演した。庄原市をはじめ三次市や神石高原町から応募した84人が出演。5月から練習に励んできた成果を、精一杯披露した。小さな子どもたちが体全体を使つての踊り、元気いっぱい笑顔。約1100人の来場者に感動を与え、温かい拍手が送られた。この公演も今年で10年目。子どもたちの「笑顔」を育んできた歩みを振り返る。



個性を伸ばす指導法

「子どものいい顔が見たい。本物に触れさせてやりたい」。そんな願いから、平成12年3月に庄原こどもミュージカルが生まれた。当時、庄原市では子どもが犠牲となる悲惨な事件が相次ぎ、「子どもたちに笑顔と元気を」という声が出てきた。行政主導で始まるイベントが多い中で、市民17人がゼロから実行委員会を立ち上げた。

ミュージカルの演出・指導は、大阪でミュージカル広場を運営する増田明さんに依頼。毎週大阪からスタッフ6人が庄原市を訪れ、指導をサポートする。練習では、「ボディートーク」という手法で心と体をほぐし、子どもたちが自ら踊ったり、歌ったり、演技することを引き出す。子どもたちの個性

を大切にし、その子にあった役、そしてセリフが与えられ、一人一人が主人公になれるよう仕掛ける。

第1回の公演「ピターパン」では、前日のリハーサルが散々な内容。「これで本番は大丈夫なのか」と実行委員に不安が広がる中、増田さんは「奇跡が起きます」と一言。その言葉通り、本番は元気いっぱい舞台を飛び跳ね、最高の感動を与えた。「10年やってきて、これが忘れられないエピソード。増田先生の子どもを信じる姿勢、観察力はすごい」と児玉節実行委員長は驚く。



カープが支援 球場が舞台

順調なスタートを切った庄原こどもミュージカルだったが、公演を重ねるとともに参加者が減り、運営費の捻出にも苦しい状況になった。年間の運営費約500万円は、参加者負担金、チケット代、企業協賛金などに支えられている。大阪では6〜7万円の参加者負担金も、「庄原市ではそんなに取れない。多くの子どもたちを元気にしたい」という思いから2万円に設定している。そのため、チケット代や企業協賛金かなりのウェイトを占める。赤字が続く、児玉委員長が「もうやめようか」と切り出したとき、「子どもたちのためにミュージカルは必要なんです。なんとかして続けていきましよう」と実行委員が涙を流した。「よし、

もう1年がんばってみよう」と、各家庭の日用品をフリーマーケットで売って資金を稼いだ。

そんな時、こどもミュージカルの活動を知った広島東洋カープの松田元オーナーは「子どもを思う気持ちがある。練習では、カープも活動を応援したい」と支援を持ちかけた。「市民球場に踊りに来なさい。試合前と5回終了後に踊ったら、PR効果は大きいのでは」。松田オーナーの一言で、市民球場での披露がトントン拍子に決まった。市民球場でのパフォーマンスに、子どもたちの喜びも爆発。もう一つの絵舞台ができたことで、ミュージカルの参加者も回復した。また、10月の公演には、カープの選手が応援にかけつけるなど相互交流が続いている。

「10年は長いようであつたという間。苦労もあつたけど、子どもたちのうれしそうな笑顔がすべての支え。どこでもできることではない。庄原市で続けて来たことを誇りに思う」と片岡佐和子副実行委員長。経験のある子どもが年下の子どもを指導する姿に、10年間の歩みを感じる。

庄原市の誇りを醸成

企画や準備、資金集め、運営をすべてこなす実行委員。「子どもたちのいい顔がみたい」という熱い思いを持ち

続けた。「庄原こどもミュージカルは、ミュージカルスターを育てるのが目標ではない。子どもたちが庄原市に生まれ育つたことを誇りに感じてくれたらいい。こどもミュージカルの経験を一生涯の心の支えとして、社会に出て活躍してほしい。そして、また庄原市に帰ってくれば」と実行委員は口をそろえる。

ここ2〜3年、独立行政法人などの助成金で運営資金を確保し、各地域でミニ公演を開くなど、ミュージカルの楽しさを広めている。しかし、国による独立行政法人の抜本的な見直し経済不況で今後の資金繰りは不安が増す。今後について、「1年・1年が勝負。できるだけ長く続け、子どもたちを元気にしたい」と青木ルリ子事務局長。継続は力なり。引き続き地域の温かい支援が求められている。